

# 日本財団・PNLSC共同事業

## フィリピン残留日本人2世の国籍回復支援

～日本人としてのアイデンティティーを取り戻すために～

### 1. 事業概要

身元未判明のフィリピン残留日本人2世を対象に、国籍回復支援(身元調査、証拠書類収集、就籍申立)及び家庭裁判所における調査官面接のための集団一時帰国を支援する。

(就籍とは、潜在的に日本国籍を有していながら戸籍に記載されない人が、家庭裁判所の許可を得て新たに戸籍を作成することを言う。なお、中国残留孤児はこの方法で約1300人が日本国籍を取得している。)

### 2. 事業背景

19世紀末頃から太平洋戦争終結までの間、約3万人の日本人がフィリピンへ移住、その多くは現地ではフィリピン人女性と結婚し、平穏で豊かな生活を営んでいた。しかし、戦争により父親を亡くしたり、敗戦後日本へ強制送還されたりするなどして家族が崩壊、多くの妻やその子供(フィリピン残留日本人2世)が現地にとり残された。さらに戦後は反日感情による差別がひどく、出生証明書などを破棄して日本人であることを隠し、極貧の中、戦後を生き延びてきた。

こうした中、本事業では戦中戦後の混乱で身元を証明する書類が限られているフィリピン残留日本人2世の日本人としてのアイデンティティーを回復するため、家庭裁判所への就籍申立による支援を2006年に開始。その結果、これまで63名の国籍を回復させることができた。しかしながら、出自が判明できない残留日本人は、現在就籍申立中の82件を含め、未だ200名程度存在する。その多くは、父が日本人だと証明する証拠書類がほとんどないため、就籍による救済が困難な状況にある。

さらに高齢により死亡する方も増えていることから、今後、中国残留孤児と同様に「孤児名簿」を作成し、日比両国政府の公認を得て、就籍申立ての証拠として裁判所に提出することが急務である。

### 孤児名簿について









フィリピン残留日本人2世の多くは、自らが日本人であることは確かであるにも関わらず、それを証明する資料が乏しい。本事業では、就籍許可申立の証拠のため裁判所に提出する日比両国による認証をととしての「フィリピン残留日本人2世名簿」を作成する。完成した約300名の名簿は、フィリピン外務省による残留日本人2世である認証を得た後、外務省に提出され、家庭裁判所の公開請求に応じて提出、審判の決定のための重要な資料として用いられる。本名簿の作成にあたっては、外部有識者の専門的知識を取り入れ、検討を行う諮問機関として、「フィリピン残留日本人2世名簿作成」有識者会議を設置し、その提言を基礎内容としている。

### 3. 身元未判明残留2世状況(2011年6月22日時点)

就籍による国籍取得(2006年～現在)	63名
就籍による救済対象(係属中、新規申立)	205名
対象外(国籍取得を希望しない、海外在住など)	126名
死亡ケース	496名
<b>身元未判明者総数</b>	<b>890名</b>

フィリピン残留日本人2世	約3000名
3世	約1万人
4世	約3万人



帰国者	①父の氏名 ②家庭裁判所への就籍許可申立日 ③兄弟姉妹数	父の出身	性別	年齢	出生年月日	プロフィール
 アラカキ イノセンシア (日本名: ユニコ/ヨネコ)	①アラカキ ヒロシ ②2007年11月8日 ③なし	沖縄	女	66	1945年 2月23日	父アラカキヒロシはダバオ市トリルでアバカの栽培に従事したのち、のちにトゥバンでココナッツ精油の仕事をしていた。1943年10月14日に、友人(ワタナベ、カマシキ、オナガ)の紹介で知り合ったフィリピン人女性でバゴボ族のロシータ マニユエルとバゴボ族の方式で結婚。戦中で母が妊娠中、一家はダバオデルスル州バダダへ移住。そこで父はフィリピン人ゲリラに捕まり拷問をうけて死亡し、本人は父の顔を見ることなく育った。戦後日本へ引き揚げた父のいとこの子ども「ウイチ ミナル」から父の写真を受け取っている。
付き添い		帰国者の現住所				
ジョナリー M. アグラン(息子)		ダバオデルスル州 サンタクルス町				
 奥間 パシータ	①奥間 萬蔵 ②申立予定 ※父生存のため、沖縄にて対面の予定 ③2(第1子)	沖縄	女	69	1941年 11月30日	父はネグロスオキシデンタル州サンカルロス市で漁業に従事した奥間萬蔵。シバワイ島出身のフィリピン人女性のアナタリア サルドアとサンカルロス市のボロメオ教会で結婚。その後父は服地や食料品を販売する仕事を始めた。1941年に本人、1942年に弟が産まれた。戦中父は日本軍に従軍し、戦後日本へ強制送還された。本人が16才頃に日本に住む父から手紙を受け取り、父が日本で新しい家庭を持ったことを知る。調査の結果、父の生存を確認。本人は父との面会を希望している。
付き添い		帰国者の現住所				
ジュディス マダヤ アヴィレス(娘)		ネグロスオキシデンタル州 サンカルロス町				
 トヤマ カルメリータ (日本名: ヤイコ)	①トヤマ ヒロシ ②2010年4月30日 ③2(第1子)	沖縄	女	67	1943年 9月30日	父はミンダナオ島のピンダサンにあった「フルカワ」という会社でアバカ栽培に従事していたトヤマ ヘロシ。ピンダサンのレストランで働いていた母ビクトリア ラスクニヤと出会い、当時ピンダサンにあった日本の神社で結婚式を挙げた。戦中、父は日本軍に従軍しながら家族と共に生活し、2人の子どもをもうけた。戦争が激しくなり、家族全員でコタバト州ピキットの母の親戚のもとへ避難したが、そこで父は「戻ってくるかもしれないから40年間は結婚しないように」と言い残し、行方不明になった。
付き添い		帰国者の現住所				
カロリナ P. コマ(娘)		ダバオ市トリル地区				
 グシ ラモナ (日本名: マサエ)	①グシ (名不明) ②2009年12月25日 ③なし	熊本	女	67	1943年 11月13日	父はダバオ市トリル、トンカンで大工業や農業に従事したグシ。父の弟「サイチ」とおじ「タマシロ」とともに渡比。母から父の出身地は「クマモト」と聞いていた当時トンカンでは新規入植した日本人とバゴボ族の間に軋轢があったが、父とバゴボ族の母アロン カワヤンが1941年9月20日に結婚したことにより関係が良くなった。結婚式は日本の方式とバゴボ族の方式の両方で執り行われ、父の友人のスガイ、タナカ、アカホシらが出席した。戦中、父は日本軍の手伝いをしていて、アメリカ軍の飛行機から撤かれた投降を呼びかけるチラシを見て降伏を決意。「無事に日本へ戻ったら手紙を書く」という言葉を残し別れたままとなった。
付き添い		帰国者の現住所				
ジョセフィン T. ピオ(娘)		ダバオデルスル州 サンタクルス町				
 サカモト レオナルド (日本名: タカル)	①サカモト オトキチ ②申立予定 ③なし	熊本・広島	男	67	1944年 1月15日	父はダバオ市にあった雑貨店「フカミストア」店員のサカモトオトキチ。雑貨店の2階にあった、日本人の経営する「アポスタジオ(写真館)」で働いていた母チュオドラ サヨンと出会う。1943年頃から両親は同棲を始めるが、戦中であつたため結婚式はできなかった。父は日本軍とともに行動するようになり、家族は他の日本兵と共に母の姉の家があるダバオ市のルアック山で過ごした。その後軍隊と家族のもとを行き来していたが、本人が産まれてから約3ヶ月後に行方不明となる。
付き添い		帰国者の現住所				
ライアン C. リムサン(息子)		ダバオデルスル州 ニューコレリヤ町				
 キヤマ ジョバンニ	①キヤマ ハタ ②申立予定 ③なし	横浜	男	65	1945年 10月28日	父はカスピ州ピラール町のピラール鉱山で主任技師として働いていたキヤマ ハタ。父の同僚には「オガワ」「アモリ」という日本人がいた。戦中は日本軍に従属。フィリピン兵の妹として捕えられた母レスレション ピヤシスの処分を任せられた父は、母を救出。その後同棲する。戦争中のため、両親が結婚式を挙げる事ができたかどうかは不明。本人が産まれる数ヶ月前に、父は他の日本兵と共に日本軍の車両で移動中にフィリピン兵の襲撃に遭い死亡。
付き添い		帰国者の現住所				
ジョナリサ キヤマ(娘)		イロイロ州サラ町				
 クロサワ ホセ	①クロサワ ヤシド ②調査中 ③7(第4子)	福島	男	81	1929年 12月28日	父は北サマール州ラビサレル町で農業、大工業に従事したクロサワヤシド。ラビサレル町で母レオンシア ハタツと結婚。その後7人の子どものもうけた。父は戦中フィリピン警察に拘束されたが、日本軍がフィリピンに到着したのちは日本軍とともに行動。日本軍に連行された近所の人がブッコの日本軍キャンプで目撃したのを最後に、消息をたつた。
付き添い		帰国者の現住所				
エメリー イグナタ(娘)		北サマール州ラビサレル町				
 マツナガ フィレモン	①マツナガ ヒルヒジ ②申立予定 ③なし	不明	男	73	1937年 11月22日	父はセブ市の「京都バザール」で貿易の仕事をしていたマツナガ ヒロイチ。同じく京都バザールで料理を作っていた母エネスタ サルドウアと出会う。本人は母と共にダラゲテ町の母の実家で暮らした。1940年頃に戦争が始まるという話が広まり、父は他の日本人と共に日本へ帰国。本人は父の写真を持っている。
付き添い		帰国者の現住所				
マリア ガーデニア ジンキー サルデュア(娘)		セブ州ダラゲテ町				



作成日 2011/6/21

2011年集団一時帰国 日程表				
期間		2011年8月4日(木)～8月10日(水)		
グループ①伊是名島 (奥間) グループ②熊本 (サカモト、グシ) グループ③那覇 (アラカキ、トヤマ、キヤマ、クロサワ、マツナガ)				
	月 日	スケジュール	宿 泊 地	
			写真展	ホテル
1日目	8月4日(木)	08:00 マニラ発 香港経由 15:20 那覇空港着 16:00 記者会見 (那覇空港1F) 個別取材	展示	①②③沖縄 都ホテル
2日目	8月5日(金)	10:00～ ①②③県知事、県議訪問 13:00～ ①奥間 親子対面 ②熊本へ移動(熊本空港にて記者会見) ③フィリピン領事館主催 交流会	展示	①伊是名 ②熊本 ③那覇 奥間宅 熊本市内 都ホテル
3日目	8月6日(土)	①奥間 終日伊是名島 ②熊本ダバオ会と交流 ③戦跡訪問、慰霊	展示	①伊是名 ②熊本 ③那覇 奥間宅 都ホテル
4日目	8月7日(日)	①奥間 伊是名>那覇③と合流 ②熊本で墓参り、取材 14:00～ ③①沖縄市民との交流会	展示 撤去	①那覇 ②熊本 ③那覇 東急イン 市内ホテル 都ホテル
5日目	8月8日(月)	①③移動日(沖縄から東京へ) ②移動日(熊本から東京へ)		①②③東京 三井ガーデンホ テル四谷
6日目	8月9日(火)	10:30～ 河合代表、弁護士面会(さくらで食事?) 家裁調査官面接 メディア取材 議連メンバーと面会		①②③東京 三井ガーデンホ テル四谷
7日目	8月10日(水)	厚労省、外務省訪問 都内観光(買い物) 帰国 18:30 成田発 デルタ航空 21:30 マニラ第一空港着		①②③マニラ シャロムセン ター